

岩見沢市総合戦略等推進委員会

- ・第3期岩見沢市総合戦略の取組みについて

令和8年7月24日

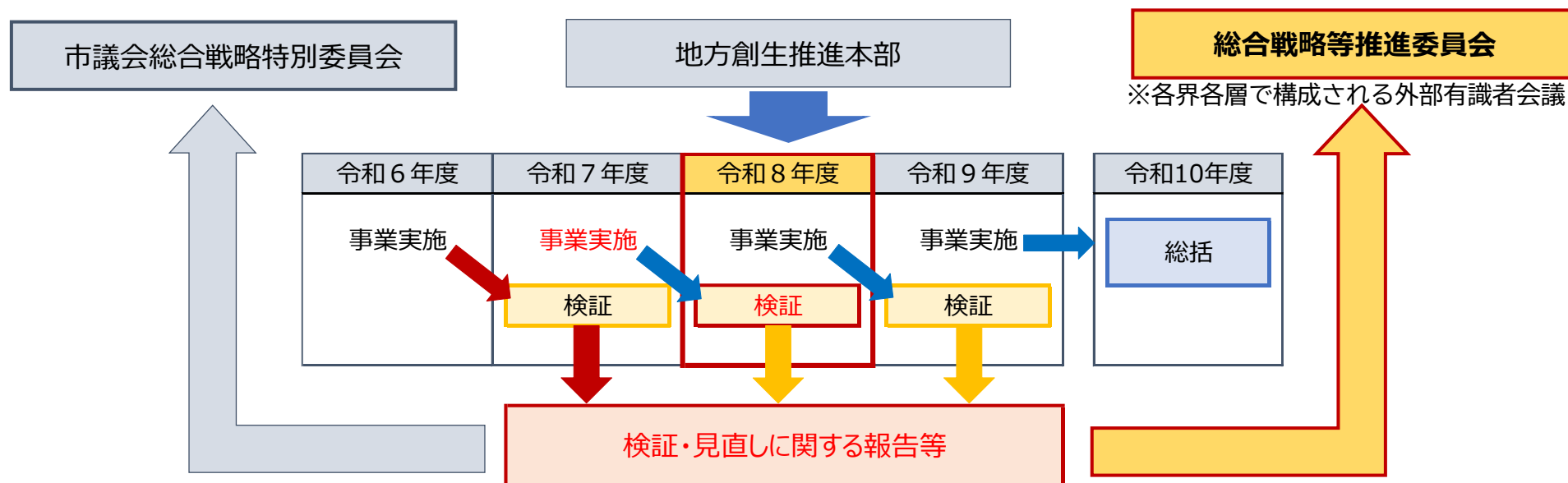
1 はじめに

総合戦略とは

- ▶ 地方創生を実現するために、これから「何を」「どのように」進めていくのか、まとめた計画をいう
- ▶ 国と地方（自治体）それぞれが道しるべとなる総合戦略を策定し、取組みを推進
- ▶ 国の総合戦略は「全体の方向性」を示し、自治体は「自分たちに合った取組み、進め方を記載した総合戦略」を策定

進行管理体制・検証の実施等について

- 進行管理体制として、毎年度、事業の進捗状況の確認や事業効果の検証を本推進委員会で実施
- 今回は第3期総合戦略の2年目となる「令和7年度の実施事業」を対象とする



- 1 人口動態について（自然動態及び社会動態の状況）
- 2 重要業績評価指標（KPI）及び各事業の実績について

2 第3期岩見沢市総合戦略の概要 -人口動態について-

(1) 自然動態と社会動態の概況（各年12月末住民基本台帳）

（単位：人）

区分		H26 (2014)	(第1期総合戦略)		(第2期総合戦略)				(第3期)	
			初年度 → 最終年度		初年度 → 最終年度				初年度 →	
			H27 (2015)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
自然動態	出生数	509	491	376	372	329	287	313	275	279
	(合計特殊出生率)	1.27	1.27	1.14	1.18	1.06	0.99	1.09	0.99	1.03
	死亡	1,189	1,080	1,169	1,089	1,220	1,257	1,324	1,309	1,244
	自然増減	▲ 680	▲ 589	▲ 793	▲ 717	▲ 891	▲ 970	▲ 1,011	▲ 1,034	▲ 965
社会動態	転入	2,815	2,739	2,542	2,450	2,501	2,406	2,469	2,404	2,287
	転出	3,365	3,395	3,117	2,791	2,850	2,795	2,689	2,688	2,755
	社会増減	▲ 550	▲ 656	▲ 575	▲ 341	▲ 349	▲ 389	▲ 220	▲ 284	▲ 468
年末人口		86,054	84,809	80,410	79,352	78,112	76,868	75,522	74,204	72,771

- 自然動態：死亡者数に対して、**出生数が大きく減少**（総合戦略スタート前のH26とR7を比較しておよそ半減）しており、**自然減が拡大**
→【国・北海道と同様の傾向】令和6年の日本の出生数は統計開始以降、初めて70万人を割り込み、令和7年は67万人台となっている
- 社会動態：年度ごとにバラツキはあるが、**社会減は引き続き減少傾向**

- ▶ R5は社会増減のKPI（▲275人/年 ※総合戦略開始前であるH26の▲550の2分の1）を初めてクリア。
- ▶ 年ごとのバラつきは見られるが、社会動態は着実に改善されてきている。

2 第3期岩見沢市総合戦略の概要 -人口動態について②-

(2)年代別社会増減の推移

(単位：人)

区分	H26 (2014)	(第1期総合戦略)		(第2期総合戦略)				(第3期)	
		初年度	最終年度	初年度 → 最終年度				初年度 →	
		H27 (2015)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
14歳以下	▲ 15	▲ 14	▲ 11	1	44	4	22	20	▲ 2
15～19歳	▲ 63	▲ 59	▲ 24	▲ 14	▲ 29	▲ 28	▲ 31	▲ 34	▲ 46
20～29歳	▲ 240	▲ 252	▲ 293	▲ 271	▲ 320	▲ 225	▲ 166	▲ 219	▲ 285
30～39歳	▲ 83	▲ 145	▲ 99	8	5	▲ 26	9	22	▲ 17
40～64歳	▲ 21	▲ 88	▲ 29	11	12	▲ 27	43	▲ 18	▲ 15
65歳以上	▲ 127	▲ 93	▲ 120	▲ 77	▲ 50	▲ 81	▲ 91	▲ 52	▲ 100
職権	▲ 1	▲ 5	1	1	▲ 11	▲ 6	▲ 6	▲ 3	▲ 3
差引増減	▲ 550	▲ 656	▲ 575	▲ 341	▲ 349	▲ 389	▲ 220	▲ 284	▲ 468

「14歳以下」の子どもと、その親世代に相当する「30歳代」の社会動態は、年度ごとバラツキはあるが改善傾向が継続している

▶ すぐに結果が表れるものではないが、市の強みである子ども・子育て施策を息の長い取組みとして推進していく。

3 第3期岩見沢市総合戦略における主な取り組み①（芸術文化・スポーツ交流創出事業）

基本目標2 新しい「ひとの流れ」をつくる

● 芸術文化・スポーツ交流創出事業（※旧美流渡中学校改修工事）

旧校舎を活用した交流拠点施設を整備することにより、芸術や文化・スポーツを背景にした、人のつながりや交流の創出、関係人口の拡大を図る。

東部丘陵地域について

【以前】

- ・東部丘陵地域（美流渡、毛陽、万字など）は多くの炭鉱が存在
- ・「国鉄万字線」が運行し、最盛期は約1万5千人が暮らす活気のある産炭地

【現在】

- ・エネルギー革命による炭鉱の閉山・鉄道の廃止
- ・急速な人口減少に伴う相次ぐ小中学校の廃校など、地域の活力低下が課題

背景

- ・H31に閉校した旧美流渡中学校の利活用について地域から要望
- ・R3から地域住民を中心とした「みるとーぶプロジェクト実行委員会」が主体となり試験的に旧校舎を活用した様々なイベントを開催
 - ▶市内外から多くの来場実績（R3：960人、R4：4,337人、R5：3,747人）

交流人口創出に大きな成果

目的

- ・旧校舎を「人と文化の交流拠点施設」として整備
 - ▶「みるとーぶ」「炭鉱の記憶推進事業団」「教育大岩見沢校」等による活動
 - ・企画展や活動フィールドとしての活用
 - ・炭鉱・鉄道などの地域資源に関する資料展示・情報発信

人とのつながりや交流、地域の特性を生かした新たな価値の創出により、地域活性化と交流人口及び関係人口の拡大を目指す



試験利用時の様子



3 第3期岩見沢市総合戦略における主な取組み①（芸術文化・スポーツ交流創出事業）

令和7年度の取組み

旧美流渡中学校整備内容

- ・ 消防法の適合改修（排煙設備・防災壁・非常用照明・煙感知器など）
- ・ インフォメーションセンター及び地域資料コーナーの設置
（地元工芸家・歴史的展示物を紹介）
- ・ Wi-Fi環境整備（オンラインイベントやリアルタイム発信）

事業費

- ・ 建築物整備 62,469千円（主に消防法の適合改修）
- ・ 設備整備 5,773千円（Wi-Fi整備・展示用コンテンツ作成など）
- 合計 68,242千円

※新しい地方経済・生活環境創生交付金（拠点整備事業）活用

事業費68,242千円×1/2=34,121千円

改修前 地域資料コーナー 改修後



改修前 インフォメーションセンター 改修後



改修前 創作展示室 改修後



今後の活用方法

●共働によるまちづくり

町会・大学・団体等の連携による地域の活性化

●市民活動と学びの場

地域住民が多様に活動・交流し、新たな活力を生み出していく活動と学びの空間

●多世代・多団体の参画

多様な人々が集い・つながり、人の輪が広がる空間

●地域資源の情報発信

炭鉱・鉄道など、地域の歴史に触れ、地域の魅力を次世代に伝えていく情報発信

フロア	活用イメージ
1階 (インフォメーション、交流フロア)	地域資料コーナー、インフォメーションセンター、地域交流スペース
2階 (ワークショップ、セミナーフロア)	ワークショップやセミナー、アトリエなど
3階 (ギャラリーフロア)	ギャラリー展示、創作活動など

3 第3期岩見沢市総合戦略における主な取り組み②（健康経営都市推進事業）

基本目標4

誰もが安心して暮らし活躍できる地域をつくるとともに、新しい時代の流れを力にする

● 健康経営都市推進事業（北大COI－NEXTと連携した健康経営都市の推進）

目的

「人もまちも企業も元気で健康」な地域社会の形成に向け、産学官金が連携のもと、市民のための新たな環境づくりの取り組みを行い、健康経営都市を推進する。

北大COIとは、北大を中心とした産学官が連携した取り組み
主な参画企業は森永乳業、日立、ツルハなど。
自治体では、岩見沢市は当初から参画しており、北大COI-NEXTの取り組みからは、札幌市や小樽市なども参加

COIとはセンター・オブ・イノベーションの略で、文部科学省・科学技術振興機構が実施しているプログラム
10年後、どのように社会が変わるべきか、人が変わるべきか、その目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型の研究開発を支援するもの

北大COIと連携したこれまでの主な取り組み経過

- H27～ 健康イベント等における普及啓発（健康まつり・教育大あそびプロジェクト）
- H28～ 地域健康講座の開催（保健推進員等企画の健康講座）
- H28～ 家族健康手帳アプリ ※R5～すこやか健康アプリ
- R1～ 元気発見ドック
- R2～ 母子健康調査
- R2～ 健康づくり絵本の制作



活動拠点

フード&メディカルイノベーション
(FMI) 国際拠点



健康経営都市宣言
認定（H28.6）
※全国初

3 第3期岩見沢市総合戦略における主な取り組み②（健康経営都市推進事業）

母子健康調査

母子健康調査とは

子どもの成長や発達に及ぼすさまざまな要因を明らかにするほか、出生率の向上及び低出生体重児の減少などを目的に、妊娠中の生活環境をはじめ、生まれた子の生活習慣や健康状態などを継続的に把握する調査（H29.6開始）

低出生体重児の減に向けた産学官による
これまでにない取り組みとして高い評価

- R3.2 日本オープンイノベーション大賞（日本学術会議会長賞）
- R3.7 学術誌Natureにおいて北大COIの取り組みを紹介
- R3.10 プラチナ大賞（大賞・総務大臣賞）
- R3.12 「健康寿命をのばそう！アワード」厚労大臣賞 団体部門 優秀賞



森永乳業株式会社との連携協定の締結

岩見沢市と森永乳業株式会社が包括的な連携のもと、健康分野で相互に協力し合い、市民の健康増進や健康科学による地域の発展に貢献することを目的として、令和7年7月9日に「健康増進に関する包括連携協定」を締結



森永乳業株式会社から食育かるたの寄贈があり、市内の保育所・幼稚園・認定こども園等に配布しました。
このかるたを通して、遊びながら食の大切さや栄養について楽しく学ぶ機会を作っていきます。



3 第3期岩見沢市総合戦略における主な取り組み② (健康経営都市推進事業)

令和7年度の主な取り組み

- ・産学官金連携のもと、健康ひろばを中心に事業を展開し健康経営を推進
- ・北大COI-NEXTと連携

げんき発見ドック(R1～)

従来の「管理」のための健康診断から自分の「げんき」を「発見する」ポジティブな健康維持・増進とフレイル(虚弱)予防・改善に向けた取り組み



健康づくりの絵本の配付(R2～)

令和2年度に北海道大学、絵本作家すずきもも氏と作成

⇒小学校1年生から使える、健康づくりをテーマとした絵本を配付

健康を考えるきっかけづくりのため、子どもに正しい生活習慣を身につけるための教材として、学校や児童館等での活用、子どもから父母、祖父母にもアプローチし、大人の生活習慣の改善にも繋げる



小学1年生へ配付



1年生から高学年、大人まで活用

健康意識向上に関する取り組み(H27～)

健康まつり等での普及・啓発



はかせ体験



北大歯学院 口腔機能測定



介護予防体操



モルック体験(教育大)

4 第3期岩見沢市総合戦略の事業評価

-評価指標（KPI）の実績-

基本目標の評価指標(KPI)の実績

基本目標 1 安定した雇用を創出するとともに、 経済を支える人材を育て活かす

- (1) ICTや農業の強みを活かした雇用の創出
- (2) 起業支援や地元企業の成長支援・育成による雇用の創出
- (3) 地域を支える人材育成による経済の活性化

重要業績評価指標（KPI）		基準値	R6実績	R7実績	R9目標値
総所得の向上	①1人あたりの総所得	1,718千円	1,918千円	未公表	2,000千円
労働生産性の向上	②従業員1人あたりの付加価値額	4,045千円	調査なし		4,250千円
	③従業員1人あたりの製造品出荷額等	31,559千円	35,242千円	未公表	32,000千円
農業の生産性の向上	④農業産出額	17,673百万円	未公表		17,800百万円

基準値・目標値等の
考え方

- ①課税状況調（基準値：2022年、目標値：計画期間終了時点）
- ②経済センサス活動調査（基準値：2021年、目標値：計画期間内における最新の実績）
- ③経済構造実態調査（旧工業統計調査）※製造業（基準値：2020～2022年平均、目標値：計画期間内における最新の実績）
- ④市町村別農業産出額＜推計＞（基準値：2019～2021年平均、目標値：計画期間終了時点）

基本目標 2 新しい「ひとの流れ」をつくる

- (1) 芸術文化・スポーツや鉄道、炭鉱、ワイン等の強みを活かした地域ブランドの確立と交流人口・関係人口の創出
- (2) 住みやすさを活かした移住の促進

重要業績評価指標（KPI）		基準値	R6実績	R7実績	R9目標値
転出超過数を2014年の2分の1に抑制	①転出超過数	▲389人	▲284人	▲468人	▲275人
人口の社会増減率の改善	②人口の社会増減率	▲0.50%	▲0.38%	▲0.63%	▲0.40%
定住意向の向上	③「住み続けたい」の回答割合	67.5%	60.7%	調査なし	70.0%

基準値・目標値等の
考え方

- ①②住民基本台帳人口（基準値：2022年、目標値：計画期間終了時点）
- ③市民意識調査（基準値：2018年実施調査、目標値：計画期間内における最新の実績）

4 第3期岩見沢市総合戦略の事業評価

-評価指標（KPI）の実績-

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる、 誰もが活躍できる地域社会をつくる

- (1) 安心して子育てできる環境づくりの推進と次世代を担う子どもの教育環境の充実
- (2) 仕事や家庭の両立支援による働きながら子育てできる環境づくりの推進
- (3) 誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合いコミュニティづくりと地域共生社会の実現

重要業績評価指標（KPI）		基準値	R6実績	R7実績	R9目標値
合計特殊出生率の向上	①合計特殊出生率（単年）	0.99	0.99	1.03	1.40
	②合計特殊出生率（5か年平均）	1.13	1.06	1.03	1.40
子育てに関する不安や負担の軽減	③不安や負担を「感じない」の回答割合	46.0%	43.5%	調査なし	50.0%
こども・子育て支援施策の満足度	④「満足している」の回答割合	32.8%	30.3%	調査なし	35.0%

基準値・目標値等の考え方

- ①②岩見沢市算定数値（基準値：2022年、目標値：計画期間終了時点）
- ③子ども・子育てプランニーズ調査（基準値：2019年、目標値：計画期間内における最新の実績）
- ④市民意識調査（基準値：2021年実施調査、目標値：計画期間内における最新の実績）

基本目標 4 安心して暮らすことができる地域をつくるとともに、 新しい時代の流れを力にする

- (1) 医療の充実、市民の健康推進等による市民生活の向上と安心で住みよいまちづくり
- (2) 未来技術の活用による「Society5.0」の実現と広域連携の推進、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくり

重要業績評価指標（KPI）		基準値	R6実績	R7実績	R9目標値
健康寿命の延伸	①健康寿命（男性）	78.97歳	78.90歳	78.70歳	79.21歳
	②健康寿命（女性）	85.13歳	84.60歳	84.60歳	85.66歳
総合的な雪対策に対する評価の向上	③「評価する」の回答割合	63.4%	63.5%	調査なし	70.0%
ICTを活用したサービスの創出	④新たな利活用サービスの実装数	23種	29種	30種	42種

基準値・目標値等の考え方

- ①②介護保険データを用いた簡易な算定方式（基準値：2022年度、目標値：計画期間終了時点）で、国や北海道の算定方法とは異なる
- ③市民意識調査（基準値：H30年実施調査、目標値：計画期間内における最新の実績）
- ④岩見沢市算定数値（目標値：計画期間終了時点）

4 第3期岩見沢市総合戦略の事業評価

-各施策の評価指標（KPI）の実績-

【基本目標1】安定した雇用を創出するとともに、経済を支える人材を育て活かす

事業名	重要業績評価指標（KPI）					今後の方向性
	項目	基準値	R6実績	R7実績	R9目標値	
農業DX推進事業	①農業における新たなビジネスモデルの創出件数	1件 (R4実績)	0件	0件	3件 (計画終了時点)	作業省力化やデータに基づいた土づくりによる生産量増加、コスト縮減のほか、流通企業ニーズの的確な把握により、高付加価値化や販路の拡大等を図る
	②新規作物及び新規販路開拓の対象品目	-	0品目	0品目	2品目 (計画終了時点)	
創業支援事業	③創業塾受講後の創業人数	25人 (R2～R4合計)	9人	7人	40人 (4年間の合計)	創業支援のワンストップ窓口、創業塾の開催、各種セミナー開催による支援を強化し、商工業の活性化と雇用の創出を図る
プレミアム付き建設券発行支援事業	④プレミアム付建設券による経済波及効果	24.8億円 (R4実績)	17.4億円	17.1億円	24.8億円 (各年度)	制度の活用状況や経済波及効果等を踏まえ、市内経済団体などと協議し、一般財源の削減を図る仕組みの検討が必要
新規就農・農業後継者育成支援事業	⑤新規就農者数	14人/年 (R2～R4平均)	17人/年	7人/年	20人/年 (各年度)	国等が主催する就農相談会への継続参加や農業大学校との連携により、意欲ある新規就農者の育成・確保に努める
人材の育成と活躍推進事業	⑥デジタル人材育成研修参加者及び就業者数	255人 (R2～R4合計)	148人	130人	340人 (4年間の合計)	市民や企業向けの研修・マッチング等による就業支援の継続実施とともに、参加者の習熟度に応じた事業内容の最適化や費用徴収等の運営手法を検討

【基本目標2】新しい「ひとの流れ」をつくる

事業名	重要業績評価指標（KPI）					今後の方向性
	項目	基準値	R6実績	R7実績	R9目標値	
教育大学連携事業	①岩見沢市と教育大学岩見沢校の連携事業数	11件	12件	11件	20件 (各年度)	市内全域をフィールドとした芸術文化・スポーツに接する環境づくりや、学生と地域との交流により卒業後の定住や将来のUターンを促進する
中心市街地活性化対策事業	②全市人口に対する中心市街地人口の比率	5.89%	5.94%	5.99%	6.00%	中心市街地活性化基本計画の認定を目指すとともに、当該認定による国の支援制度を活用しながら、関係機関と連携し、課題解決に取り組む
観光物産振興事業	③観光入込客数（イベントを除く）	678,418人 (R2～R4平均)	920,849人	870,170人	1,180,000人 (計画終了時点)	各種SNSを活用した効果的な国内外への情報発信やメープルロッジでのアクティビティ事業の強化により、国内外からの誘客に努める
移住定住促進事業	④社会動態における転入率	3.09%	3.18%	3.08%	3.10% (計画終了時点)	まちの魅力の効果的な情報発信・PRを行うとともに、暮らしの体験機会や住まいの情報提供など、当市への移住関心の高い層へのアプローチを行う
	⑤社会動態における転出率	3.55% (R2～R4平均)	3.56%	3.71%	3.54% (計画終了時点)	
シティプロモーション推進事業 広報活動事業	⑥ポータルサイト閲覧者数（魅力発信、こども・子育て）	37,848件	80,346件	54,168件	40,000件	利用者目線に立ったコンテンツの充実や、新たな技術・サービスによる情報発信手段の導入を検討する

4 第3期岩見沢市総合戦略の事業評価

-各施策の評価指標（KPI）の実績-

【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる

事業名	重要業績評価指標（KPI）					今後の方向性
	項目	基準値	R6実績	R7実績	R9目標値	
あそびの広場運営事業	①こども・子育てひろば「えみふる」利用者数	46,415人 (R2～R4平均)	73,874人	74,775人	77,000人 (各年度)	既存遊具の更新や各種スポーツ教室の充実のほか、「えみふる」の特性を活かした市内利用者のリピート率向上のための取組みを進める
こども家庭センター事業	②この地域で子育てしていきたいと答えた人の割合 (3歳児健診アンケート調査)	57.82% (R4実績)	48.90%	52.70%	65.00% (計画終了時点)	事業の安定した運営、連携体制の強化を図り、引き続き安心して子育てができる環境を提供できるよう、多職種、多方面からアプローチをしていく
保育所入所運営事業（保育料軽減） 子どもの医療助成事業	③待機児童数 (4月1日現在)	0人 (R4実績)	0人	0人	0人 (各年度)	保育料の減額・細分化は、短期的に成果が上がるものではないが、急激な少子化に歯止めをかける役割は大きいと考えるため、引き続き取組みを継続する

【基本目標4】安心して暮らすことができる地域をつくるとともに、新しい時代の流れを力にする

事業名	重要業績評価指標（KPI）					今後の方向性
	項目	基準値	R6実績	R7実績	R9目標値	
健康経営都市推進事業	①健康ひろば利用者数	8,994人 (R2～R4平均)	10,963人	11,282人	10,000人 (各年度)	健康まつりのイベントの一つとして、北大COI-NEXTと連携したこども向け企画等により、若年層に対して積極的にアプローチを行い、健康増進を促す
防災対策事業	②自主防災組織率	64.40% (R4実績)	69.10%	69.20%	70.00% (計画終了時点)	今後も、市民参加の防災訓練、防災チャレンジ、出前講座を通して、自助・共助による防災力を高め、災害に強いまちづくりを目指す
	③防災情報メールサービス登録者数	5,281人 (R4実績)	5,710人	5,891人	7,000人 (計画終了時点)	
共生のまちづくり推進事業	④障がい者が暮らしやすいまちづくり推進事業補助金交付件数	8件 (R2～R4平均)	3件	2件	30件 (4年間の合計)	今後も制度の周知や障がいの特性にあわせた施策展開を行うとともに、アールブリュッドギャラリーやいわみざわアートアカデミーなどにより文化芸術を通じた障がいへの市民理解をさらに深める
高齢者・障がい者の冬の暮らし支援事業	⑤高齢者・障がい者の冬の暮らしの支援事業登録世帯数	842世帯 (R4実績)	892世帯	808世帯	950世帯 (計画終了時点)	広報活動による助成制度の認知度向上により、高齢者世帯等の日常生活の安全確保に寄与している事業者との需給バランスにも考慮しつつ、持続可能な制度となるよう努める
地域情報化推進事業	⑥ICTを活用したサービスの利用件数	88,158件 (R4実績)	129,378件	135,188件	105,000件 (各年度)	今後も多様化する地域のニーズを捉えながら、利便性を実感できるサービスの実装と効果的な周知を進め、地域社会DXを推進する